

風のように



牧師：竹田孝一

29 悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。31 無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。32 互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。

エフェソ4：29－32

35 イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。・・・」

47 はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。

ヨハネによる福音書6：35、47

【説教要旨】

6月23日、沖縄戦終結の日、8月6日、9日、広島、長崎原爆投下と多くの方が舌語の苦しみの中で10万人、14万人、7万4千人の方、各地の空襲など含め、310万の方が亡くなりました。満州などの外地から引揚者を含めると多くの方がなくなりました。その命の中で今日の日本の平和があることを決して忘れてはいけません。

高校生の時、病気をし、長期入院となりました。病院が建て替える時で、大人も、子ども分けられず空いた病室に入れられて、消灯すると出征されていた方々の「どこにいかれていまし

たか」から夜長の長い話が続きます。あるとき何が怖かったか
というと、「収容所を出て、日本に帰国するときに、日本兵に
殺されたフィリピンの人が面通しをされるのです。そのとき、
『この人だ』と指さされ裁判を受けることなく、BC 戦争犯罪人
にとされる」ということだったと言っていました。

恐怖は、考える力、私たちの力を喪失させ、希望を失わせま
す。そういう BC 戦争犯罪人の収容所、モンテンルパ収容所が
ありました。

エルピディオ・キリノ。第2次大戦後の5年余り、フィリピン
大統領でした。

1945年2月に始まった日米両軍によるマニラ市街戦は、
日本軍が掃討されるまで約1カ月続き、日本軍の死者は1万6
千人以上に達しました。戦場と化したマニラで非業の死を遂げ
た民間人は10万人に及んだと言われる。上院議員だったキリノ
氏も、妻と次男、長女、三女の家族4人を日本軍に殺されてい
ます。48年に前任者の急逝を受けて副大統領から昇格したキリ
ノ大統領にとって、最大の懸案は対日講和、特にモンテンルパ
の刑務所に服役中のBC級戦犯の処遇問題でした。

再選を目指す大統領選挙を4カ月後に控えた53年7月6日。
入院中の米ボルティモアの病院のベッドで、大統領はラジオ番
組の収録に臨み、日本人戦犯105名全員に恩赦を与える大統
領声明を読み上げました。親族や友人を殺されたフィリピン国
民の反日感情を考えれば、明らかに大統領選に不利に作用する
声明でした。

日比谷公園の碑に刻まれた大統領声明、「私は日本人に妻と
三人の子ども、そしてさらに五人の親族を殺された者として彼
らの特赦する最後の一人となるだろう。私は自分の子孫や国民
に、我々の友となり、我が国に長く恩恵をもたらすであろう日
本人に憎悪の念を残さないために、この措置を講じたのである」
(日本記者クラブ いとう・よしあき)

パウロは、神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがた
は、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。無

慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさいと言われます。エルピディオ・キリノ・フィリピン大統領はまさにパウロの言葉を実践されたのです。

恐怖と憎しみという奥にもう一つの『海』を見出すことはできる、神の、イエス・キリストの愛、赦すというという恵みの海に私たちは船をだすとき、いたずらに互いに恐怖と戦うのでなく、恐怖、憎しみを超えて、「私は日本人に妻と三人の子ども、そしてさらに五人の親族を殺された者として彼らの特赦する最後の一人となるだろう。私は自分の子孫や国民に、我々の友となり、我が国に長く恩恵をもたらすであろう日本人に憎悪の念を残さないために、この措置を講じたのである」

「わたしが命のパンである。」といわれる神、イエス・キリスト、「わたしが命のパンである。」というお方を腹に入れる、キリストが命を投げ出し血によって、私たちを救い、罪を許されたように「あなたがたのために流すキリストの血」葡萄酒をいただき、キリストにつながっていくことこそ、「信頼できる人と『つながり』を感じる時は、安心して『弱く』あれるのではないのでしょうか。それだけでなく、弱いところを見せながらも、互いに助け合うということが起こる。人は、弱くあることによって強く『つながる』ことが少なくないのです。」①ということが、私たちの中に起こってきます。

「信頼できる人」、「わたしが命のパンである。」という神、イエス・キリストにつながる。強張った脳は、手は、足は動かされて、互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさいという神の勧めを喜んで行える存在とされています。

「恐怖におびえているのとは別な道を行く。利己的ではなく、いくばくかの利他を心に宿し、短絡的な判断ではなく、広い視座で世界と向き合える。そして、誰かに服従、隷属するのではなく、ひとり、おのれの道を歩む勇気を湧き立たせ得る」②

のです。それを捨てて、「信頼できる人」、「わたしが命のパンである。」という神、イエス・キリストにつながって、聖霊が与えて下さる創造の勇氣、希望を抱いて、別の道、利他の道へと導かれていきましょう。(①②「弱さの力」若松英輔 亜紀書房) 若松英輔)

日毎の糧

78:20 神が岩を打てば水がほとばしり出て／川となり、溢れ流れるが／民にパンを与えることができるだろうか／肉を用意することができるだろうか。」

78:21 主はこれを聞いて憤られた。火はヤコブの中に燃え上がり／怒りはイスラエルの中に燃えさかった。78:22 彼らは神を信じようとせず／御救いに依り頼まなかった。78:23 それでもなお、神は上から雲に命じ／天の扉を開き78:24 彼らの上にマナを降らせ、食べさせてくださった。神は天からの穀物をお与えになり78:25 人は力ある方のパンを食べた。神は食べ飽きるほどの糧を送られた。 詩篇78：20—25



ルターの言葉

主なる神、天の父よ、私たちはあなたからつきることなく、あふれるばかりに豊かな、あらゆるよい賜物を受け、またあなたによって、日毎にあらゆる悪から守られています。

『ルターの祈り』石居正己編訳 聖文舎

神に守られて

詩篇78編の特徴は出エジプトの歴史を振り返り、神の御業に導き出されてきたという歴史観。それは私たちも同じではないだろうか。「今日まで守られ 来たりし我が身 露(つゆ)だに憂(うれ)えじ 行く末などは 如何(いか)なる折りにも 愛なる神は 全ての事をば 良きにし給わん」と聖歌292番を讃美しよう。

祈り：私の小さな歩みも、神の御業の中にあることを信頼して、希望をもって歩むことが出来るようにしてください。アーメン

牧師室の小窓からのぞいてみると



私の好きな歌手の渡辺はま子さんは、平和の尊さを常にステージで語り続けた方である。1952年（昭和27年）1月、来日したフィリピンの国会議員ピオ・デュランから衝撃的な事実を知らされた。同国モンテルパ市のニュー・ビリビッド刑務所には、多数の元日本軍兵士が収監されており、すでに14人が処刑されたと聞かされた。第二次世界大戦後7年も経つのに、なお刑を受刑し続け、中には死刑を待つだけの人達も居ると聞いた。1952年6月、渡辺はま子の自宅に、一通の封書が届けられ、中には、楽譜と短い手紙が入っており、その楽譜の題名には「モンテルパの歌」作詞代田銀太郎、作曲伊藤正康と書いてあった。「モンテルパの歌」は、刑務所で収容されていた日本人111名の、日本への望郷の念を込めた曲であった。『あゝモンテルパの夜は更けて』と名付けられた。1952年（昭和27年）12月25日、渡辺はニュー・ビリビッド刑務所を訪れた。吹き込み以来、刑務所慰問の決意を固めていた渡辺が、国交が無いフィリピン政府に対し、戦犯慰問の渡航を嘆願し続けて半年後の事だった。渡辺来訪時、代田銀太郎と伊藤正康は開演前に対面し、歌を作ってもらった事に対し礼を述べた。渡辺が慰問のステージ終盤に『あゝモンテルパの夜は更けて』は披露された。この曲を聞いた108名の収容者は、死刑が執行された戦犯たちの事を思い、またある者は日本への望郷の想いを胸に、皆感極まって涙し、最後には全員起立しての大合唱となった。作詞者の代田も、作曲者の伊藤も涙を流していた。その後、渡辺はま子を始め、加賀尾秀忍ら関係者の努力が、当時のフィリピン政府当局を動かし、1953年（昭和28年）7月、すでに同曲をおさめたオルゴールを加賀尾から贈られていたフィリピン共和国大統領エルピディオ・キリノの独立記念日特赦によって、戦争犯罪者108名全員の日本への帰国が計られ、実現した。



（Wikipedia「モンテルパの夜はふけて」より）

甘木通信

「にも拘わらず」という、重富牧師の引退の挨拶文である。

「1969年11月に、別府教会で按手を受けて41年と半年、日本福音ルーテル教会の牧師を務め、この3月現役を引退することになりました。定年許容ぎりぎりには一年早く定年退職です。生涯一度も、ぎりぎり一杯まで無理したことのないこの身、この度も若干の余力を残して引退させていただきます。

11月に按手というのは奇妙ですが、1969年の神学校卒業生の中で9人だけは、教師試験をボイコットし、『九氏宣言』を出し、全国の教会を訪ね、教会のあり方についての討論を展開していたのです。そうしながら稔台の町工場で、アルバイトをして食いつないでいました。

仲間の中には、何人か途中で辞めた者もいますが、反乱の筆頭株だったわたしが、41年と半年、この職務を曲りなりにも全うできたのは、奇跡だったと、しみじみ思います。

キリストから戴いたこの職務は、わたしには尊い天職であり、天命であったと思っています。けれども、この仕事に疑いなく向いていたかと言えば、未だにそう言いきれないものがあることは否めません。どこか体に合わない洋服を着ているような気分を払拭することが出来なかったのです。新婚で初任地の別府に赴任してから、はらはらしながらもずっと信じて就いてきてくれた妻を14年前天に送りましたが、随分無理をさせていたのではないかと、思い出す度に忸怩たる思いに捕えられます。

けれども、『わたしの恵みはあなたに対して十分である』という言葉は真実でした。わたしの現役生活に貫かれていた奇跡は『にも拘わらず』というこの一事に尽きます。『にも拘わらず、あなたはわたしのもの、わたしの僕』として、用い続けてきてくださったのです。主は、この『にも拘わらず』によって、今からも、命ある限りわたしを支えてくださるでしょう。」

「にも拘わらず」という主の赦しによって僕とされているのが私たち牧師の素直な気持ちだと思う。

(甘木日記)土) 午前中、日善幼稚園の園庭掃除をし、甘木に夕刻に行き掃除。日) 無事に終わる。久留米まで車で送ってくださる。感謝。月) 幼稚園で仕事をしていると急に熱が出てくる。病院に行くがコロナは－。火) なかなか熱も下がらず。再度、病院へ。今度は＋。水) 熱も下がってきたが安静にする。Zoom で会議を計画するがどうもうまくいかない。zoom 環境を整えていくときかもしれない。木) 自宅待機する。ホームページの打ち合わせを zoom でする。夏季聖書の学びのパワーポイント作成、主日の準備をして終了。金) 自宅待機、終了。

おまじ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
ぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）今週も久留米教会の園庭掃除、花に水遣りにき、夕刻甘木に行き、広い園庭を掃除。近くに良い質の温泉があり、家内と二人で行く。日）幼稚園の壁が気になっていたのも、これをどうにかしたいと思うと園長と役員と方と話す。ただ暑すぎて頭が回らない。帰りに久留米まで送っていただく。感謝である。月）6時半に幼稚園へ行き。水遣り、掃除をする。午後から事務作業、手紙を出し、郵便口座の手続きをしていると熱が出てきた。日射病かコロナか分からず病院へ。コロナはマイナスだが、熱がさがらなければ明日、またきてくださいと。週報、風のように作成。もしものことがあればいけないので。渡辺はま子さんの曲の特集を聞きながら、モンテンルパ捕虜収容所を思い出した。戦後の日本へ憎しみがある中を105名の日本人戦犯を恩赦したキリノ大統領を思い出した。キリノ大統領は、夫人と子供3人を太平洋戦争末期に失いました。「自分の子供や国民に、我々の友となり、我が国に末永く恩恵をもたらすであろう日本人に対する憎悪の念を残さないために、これを行うのである。」との声明をだした。そのために大統領に再選されなかった。その碑が日々公園にあったことを大森幼稚園のさよなら遠足の時みたことを思い出した。私たちは多くのことを赦されて1945年委らの99年の平和が続いている。火）熱も下がらず病院へ行くと今度は+でった。来ている人に外人がおられ、実費である。早く保険が取れると良いなど強く思う。安静にしている。水）熱も下がり楽にはなった。Zoomで会議であるが、多くの人が詰まるころではどうでもうまくいかない。こういう時代だから環境を整えていくことが大切な時代となっている。土曜日から外に出られそうなので日曜日の甘木の「コヘレト」の学びの再チェック。古い扇風機が壊れる。木）朝起きて、羽村幼稚園の新体制についての移行への準備がなされていることに感謝のメールを送る。ただ悩むことはいつまでも老人がリードして良いのかという事である。「にも拘わらず」「コヘレト」を分かりやすく理解してもらおうとパワーポイントで作成。これが限界。息子たちに修正を頼む。Zoomでの「ホームページについて」（羽村の百日紅）会議。百日紅の花が咲きだした。故三浦知夫牧師のお父さん芳夫牧師と別府を思い出す。お二人ともに天に帰られた。金）自宅待機。終了。

